

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育原理 I		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 佐竹 直子	実務経験	保育園・認定こども園・小規模保育園などの運営に管理者として携わる。保育者の質の向上について研究発表の実績がある。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 保育の実践を支える理論的な基礎を構築するため、保育の意義と目的を理解する。 ・ 保育に関する法令及び制度を理解した上で、現代で求められている保育内容や保育士の社会的役割について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 保育の理念・概念・法令・制度などを知り、それに基づきながら、保育を行う上で必要な基本的知識を得る。また理解だけでなく、必要な時には動画視聴やディスカッション等を通して、将来的に長く活用できると知識の定着を図る。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 保育とは何か、子ども理解、保育の環境、保育内容と方法、保育の過程など保育の全体像について理解することができる。また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 「保育」とは何か 2. 子どもの最善の利益の確保とは 3. 子どもを取り巻く環境の変化 4. 保育の歴史に何を学ぶか 5. 世界・日本の保育しそく・保育施設の歴史から学ぶ 6. 保育における「子ども理解」とは 7. 子ども理解を深めるために 8. 環境による保育・環境を通して行う教育 9. 人的・物的環境としての保育者 10. 環境構成・メディアと環境 11. 保育内容とは 12. 「三つの柱」と「10 の姿」 13. 保育方法の原理 14. 遊びによる総合的な指導とは 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・ 最新 保育原理 (第 2 版) 教育情報出版 ・ 保育所保育指針解説 (フレーベル館)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子ども家庭福祉		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の一翼である子ども家庭福祉について理解し、「社会福祉観」を構築する基礎をつくる。子ども家庭福祉における様々な法体系・施策(サービス)などについて理解を深める。 [授業全体の内容の概要] ・現代社会における子ども家庭福祉の意義・役割等を明らかにする。 ・子ども家庭福祉の各施策(サービス)について、理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷を理解する。 ・子どもの人権擁護を理解する。 ・子ども家庭福祉の制度と実施体系を理解する。 ・子ども家庭福祉の現状と課題を理解する。 ・現代の子ども家庭福祉の課題と展望を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の構造と児童観 3. 子どもの人権擁護の歴史的変遷 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 5. 子ども家庭福祉の制度と法体制 6. 児童福祉施設及び子ども家庭福祉の専門職 7. 児童虐待防止への取り組み少子化と地域子育て支援 8. 多様な保育ニーズへの対応 9. 障害のある子どもへの対応 10. 少年非行などへの対応 11. 貧困家庭・外国につながる子どもとその家族への対応 12. ひとり親家庭への対応 13. 子ども家庭福祉の動向と展望 14. 子ども家庭福祉の実践調査 15. 「子ども家庭福祉」の学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		児童の福祉を支える子ども家庭福祉 萌文書林	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子ども家庭支援論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 内山 麗子	実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教諭として 13 年勤務。乳幼児発達コーディネーターとして、子どもの発達や育ちについて講座や講演を行っている。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 家庭の意味 (定義) や基本的機能を知り、家庭を支援する理論を学んで実践に生かしていく。 [授業全体の内容の概要] ・子どもの健全な発達や、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学習し、家庭支援の必要性を理解する。また、事例検討などを通して考える。 ・家庭のニーズに応じた多様な子育て支援の方法、関係機関との連携などについて、保育者として可能な支援を考える。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 多様性を増し、変化し続ける家庭の姿を知り、家庭支援に必要な知識を身に付け、実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子ども家庭支援の意義と必要性 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 子どもの発達と家庭 4. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 5. 子どもの育ちの喜びの共有 (共感、信頼関係) 6. 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 7. 家庭の状況に応じた支援 8. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等の連携・協力 9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10. 子育て支援施策 (児育台育成支援施策の推進、男女共同参画等) 11. 保育所等を利用する子ども家庭への支援 12. 地域の子育て家庭への支援 13. 要保護児童等及びその家庭に対する支援 14. 子ども家庭支援に関する現状と課題 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] 『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』 (萌文書林) [参考文献] 『子ども家庭支援 家庭支援と子育て支援』全国社会福祉協議会	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育者論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育者の役割と倫理を理解する。保育士の制度的な位置づけを説明できる。保育士の専門性について述べるができる。保育者の連携・協働について説明できる。保育者の資質向上とキャリア形成を説明することができる。 [授業全体の内容の概要] 保育の現場において保育者に求められる働きは多岐にわたるが、その保育者の毎日の働きがどのような意味を持っているのか、そこで尊重していくべきことは何であり何が期待されているのかを考え学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育者の役割と倫理について理解する。 ・ 保育士の制度的な位置づけについて理解する。 ・ 保育士の専門性について考慮し、理解する。 ・ 保育者の連携・協働について理解する。 ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. なぜ「保育者論」を学ぶのか 2. 保育とは 3. 保育を行うものの多様性 4. 保育者の倫理 5. 保育の現場での倫理 6. 保育現場が求める保育者像 7. 保育者の専門性と遊び 8. 保育者の専門性と環境 9. 保育者の専門性と生活 10. 保育者の専門性と子育て支援 11. 保育者の専門性と学び 12. 保育者の専門性と発達 13. 保育者の役割と同僚性 14. これからの保育者 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		これからの保育者論～日々の実践に宿る専門性～ (萌文書林)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の心理学		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習)	
授業担当者 栄 千恵子	実務経験	神経内科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 人間における生涯発達について基本的な知識を習得する。 ・ 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 [授業全体の内容の概要] ・ 乳幼児期の認知や言語などの発達、さらに発達観や生涯発達の視点について学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 子どもの発達プロセスを理解し、保育における子どもへの関わり方を理解することができる。 ・ 子どもの行動と心理を結びつけて考察することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子どもの発達と環境 2. 子どもの発達理論 3. 子どもの発達と子ども観・保育観 4. 乳幼児の発達と情緒の発達 5. 情緒の発達と自我 6. 愛着の形成と社会的相互作用 7. 身体的機能と運動機能の発達 8. 知覚と認知の発達		9. ことばの発達と社会性 10. 乳幼児期の学び 11. 乳幼児期の遊びと保育 12. 児童期の発達 13. 青年期の発達 14. 生涯発達における乳幼児期の重要性 15. まとめ	
[使用テキスト・参考文献]		「保育の心理学 ～実践につなげる、子どもの発達理解～」 井戸ゆかり編著、園田巖・紺野道子著、萌文書林	
[単位認定の方法及び基準]		・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・ 提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 子育て環境としての家族・家庭の意義について理解を深め、初期経験を通じて発達していく発達課題について理解をする。現代社会における家族役割について基礎的な理解をし、課題について理解をする。生涯発達に関する基礎的な理解を通じて、家族関係の中で発達していく心身の健康について包括的に捉えられるように理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 子どもについて知ることの意義は何か言える。発達の見方を理解する。周囲の人間とのかかわりが子どもの発達を支えていることを理解する。発達の関連性について理解する。子どもにかかわる大人自身も変化していることを踏まえて理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・乳児期における子どもの心身の発達を理解する。 ・幼児期における子どもの心身の発達を理解する。 ・乳幼児期の子どもの学びにかかわる理論や学びの過程、学びを支える援助について理解する。 ・子どものこころの健康について理解する。 ・子育て家庭の現状と子育てにかかわる親のこころについて理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子どもを理解するとは何か 2. 乳児期の身体発達・運動発達 3. 乳児期の脳の発達、コミュニケーション 4. 幼児期の自己とセルフコントロールの発達 5. 幼児期の人間関係の発達 6. 幼児期の「心の理論」の発達 7. 保育と子どもの発達～発達観、子ども観と保育観～ 8. 子どもの発達に応じた保育援助 9. 子どもの発達と保育の環境 10. 子どもの心の健康と生活環境 11. 変わりゆく家族～さまざまな家族とその支援～ 12. 変わりゆく家族～異なる文化的背景のある子どもとその家族～ 13. 子どもにかかわる大人のこころ			

14. 「子ども家庭支援」について 15. 学びのまとめ	
[使用テキスト・参考文献]	子どもとかかわる人のための心理学～保育の心理学、子ども家庭心理学への扉～萌文書林
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの理解と援助		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3、4、5歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解・把握して保育実践での実態を想定し具体的な援助を説明できる。また子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本を説明できる。 [授業全体の内容の概要] 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深めるとともに、子どもひとり一人の発達に対応した教育的対応についても理解を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 保育における発達援助について説明することができる。 ・ 保育現場での事例を通して子ども理解を深め、一人ひとりに応じた対応を理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. 子どもを理解するとは(子ども理解から始まる幼児教育・保育) 2. 子どもの学びの連続性をふまえた教育・保育 3. 指針や要領に見る子ども理解の基本 4. 子どもの生活とあそび 5. 保育の環境の理解と構成 6. 子どもを取り巻く環境の変化や移行 7. 子ども理解と発達援助 8. 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 9. 発達の連続性と就学への支援 10. 子どもを理解するための方法としての記録 11. 保育の場面ごとに見る観察・記録のポイント 12. 記録を活かした保育の展開 13. 子どもを捉える保育の記録を通した子ども理解と援助の実践 14. 実践活動から振り返る親子の理解を深める取り組み 15. 子ども理解の学びとまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		子どもの理解と援助 「子ども理解の理論及び方法」 萌文書林	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの保健		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、 障害者支援施設に看護師として従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保健における意義や子どもの発育や発達について学び、子どもの健康を保持・増進するために必要な方策と、現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を理解する。 [授業全体の内容の概要] 子どもの心身の健康及び保険についての意義を理解する。現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を挙げ、個々の事例に合わせた対応ができるようになる。身体発育、運動機能及び、生理機能の発達を理解し支援が行える。子どもの心身の健康状態を理解し、不調の早期発見及び保護者との情報共有ができる。子どもの疾病とその予防法及び適切な対応ができる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもの健康と子どもを取り巻く環境を理解できる。 ・子どもの発育と発達がわかる。 ・子どもの健康状態の把握ができる。 ・子どもの病気の予防と適切な対応ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子どもの健康とは 2. 健康と健康指標 3. 子どもを取り巻く環境 4. 地域社会と保育所 5. 身体の発育 6. 子どもの発達 7. 生理機能の特徴 8. 子どもの健康状態のみかた 9. 体調の良くない子どもへの対応 10. 発育と発達の評価とその基準 11. 保護者との情報共有とその方法 12. 主な病気の特徴と対応、予防について 13. 保育所でよく見かける病気 14. 予防できる疾患に対する対策 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献]		『子どもの保健テキスト』改定第3版 小林美由紀	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上で、筆記試験 60 点以上
---------------	---------------------------

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの食と栄養Ⅰ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 内藤 照美	実務経験	大学、専門学校、高等学校にて、高校教諭、講師として管理栄養等業務に従事する。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 小児の栄養と食生活の重要性を理解し、栄養、食物、献立、調理等に関する基本的知識を理解する。 [授業全体の内容の概要] 生涯にわたる健康な生活の基礎になる小児期の栄養と食生活について理解を深め、小児の発達段階に応じた基礎的知識と応用能力を養う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 小児の栄養と食生活の重要性を理解でき、栄養、食物、献立、調理等に関する基礎的知識を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1 オリエンテーション、食物アレルギーについて (DVD 視聴) 2 子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題 3 子どもの発育・発達と食生活、食べることに関わる臓器とその作用 (DVD 視聴) 4 栄養と食事の基礎知識 ①栄養の意味と栄養素種類、体内での役割 (DVD 視聴) 5 栄養と食事の基礎知識 ②糖質の種類、機能、子どもの体内での役割 6 栄養と食事の基礎知識 ③脂質の種類、機能、子どもの体内での役割 7 栄養と食事の基礎知識 ④たんぱく質の種類、機能、子どもの体内での役割 8 栄養と食事の基礎知識 ⑤無機質の種類、機能、子どもの体内での役割 9 栄養と食事の基礎知識 ⑥ビタミンの種類、機能、子どもの体内での役割 10 栄養と食事の基礎知識 ⑦食事摂取基準、エネルギー代謝 11 成長段階に見た栄養と食生活 ①乳児期の栄養と食生活 (DVD 視聴) 12 成長段階に見た栄養と食生活 ②離乳期栄養 (DVD 視聴) 13 成長段階に見た栄養と食生活 ③幼児期の栄養と食生活の特性 14 成長段階に見た栄養と食生活 ④気になる食事行動、食生活における問題と対応 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		『イラスト 子どもの食と栄養』森脇千夏 他 (東京教学社) その他必要に応じてプリントを配布	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が 80%以上の者に対して、以下項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 定期試験 ・ レポートの得点 ・ 出席状況 ・ レポート課題等の提出状況 ・ 授業態度	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの食と栄養Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 内藤 照美	実務経験	大学、専門学校、高等学校にて、高校教諭、講師として管理栄養等業務に従事する。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 小児の適正な心身発達の一助となるよう、献立作成、調理、盛り付け、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を養う。 [授業全体の内容の概要] 消化能力の未発達な、また抵抗力の弱い小児の食事を用意するのであることを念頭におき、特に調理法、衛生面等に配慮して行う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 小児の栄養と食生活の重要性を理解し、献立作成、調理。盛り付け、配膳等の実際についての基礎知識及び技能を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1・2 No.1 基礎調理1 子どもの発育・発達に応じた食事 さつまいも飯、みそ汁、だし巻き卵 (和風出汁の取り方、使い方を学ぼう) 3・4 No.2 基礎調理2 子どもの発育・発達に応じた食事 コンソメスープ、肉のピカタ、ジャム (洋風スープの取り方、肉の調理方法を学ぼう) 5・6 No.3 幼児期の食事1 子どもの偏食 鮭のムニエル、人参ポタージュスープ (魚、野菜嫌いを改善する方法を考えよう) 7・8 No.4 乳児期の食事 発育・発達に応じた離乳食 おかゆ、かぼちゃの煮物、クリーム煮等 (離乳初期、離乳中期の食事の作り方を学ぼう) 9・10 No.5 幼児期の食事2 子どもの咀嚼力 黒豆ご飯、けんちん汁、青菜のごま和え (食材の選択、野菜の切り方を学ぼう) 11・12 No.6 幼児期の食事3 間食作り じゃがいも餅、豆腐白玉、果汁寒天 (間食の役割、食物アレルギー対策を考える) (誤嚥・誤飲事故対策を学ぼう) 13・14 幼児期の食事の献立作成 (保育施設での昼食、おやつの献立を考える) (保育施設での食事指導の手順を考える) 15 試験			
[使用テキスト・参考文献]		『イラスト 子どもの食と栄養』森脇千夏 他 (東京教学社) その他必要に応じてプリントを配布	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が 80%以上の者に対して、以下項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 定期試験・実技試験・レポートの得点 ・ 出席状況 ・ レポート課題等の提出状況 ・ 授業態度	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の計画と評価		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 星名陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学び、全体的な計画と指導案のつながりについて、その意義と方法を理解する。また、子どもの理解に基づく保育の課程についても理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 ・ 子どもの主体性を反映した指導計画の作成について具体的に理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育所においては、保育課程に基づいて指導計画を作成し、日々の保育を展開することや、子どもの発達の連続性を意識した生活や保育内容にしていくことを理解する。 ・ 計画、実践、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 教育課程・保育課程とは① 2. 教育課程・保育課程とは② 3. 教育課程・保育課程の変遷 4. さまざまな教育課程・保育課程 5. 全体的な計画 (保育課程) の作成 6. 保育課程と指導計画 7. 指導計画の実際① (3 歳未満児) 8. 指導計画の実際② (3 歳以上児) 9. 指導計画を考えるうえで共通に必要なこと① (保育内容) 10. 指導計画を考えるうえで共通に必要なこと② (連携) 11. 指導計画の作成と実践 12. 保育実践と記録 13. 保育の計画と評価の意義 14. より良い計画と評価 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		就学前教育の計画を学ぶ (ななみ書房)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育内容総論		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 三上真里子	実務経験	私立保育園にて26年間勤務し、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を学ぶ。 また、それらを構成している保育の多様な展開についても学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 保育内容とは、幼稚園・保育園・認定こども園などにおける保育の目的を達成するために展開される保育の営み全てであり、相互に関連し、総合的に指導・展開されるものであることを、テキストや具体的な保育の実践事例を基に学んでいく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 学生自らの主体的態度を育み、保育者として保育の多様な展開について必要な保育実践力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 「保育内容」とは何か 2. 保育内容の歴史的変遷と保育所生活の全体構造 3. 発達の捉え方と保育内容 4. 保育内容における遊びの意味 5. 保育の一日と内容 6. 多様な保育・子育て支援の展開 7. 乳児保育 8. 長時間保育 9. 病児・病後児保育 10. 特別な支援を必要とする子どもの保育 11. 多文化共生の保育について実践を交える 12. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携 13. 保育内容と子ども理解 14. 保育内容の課題と保育者の専門性・展望 15. 保育内容総論とは。学びの振り返り			
[使用テキスト・参考文献]		・「保育内容総論」(建帛社出版) ・保育所保育指針 ・プリント配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と健康		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において 26 年間勤務をし、0～5 歳児のクラス担任、実習生指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、子どもの発達を保育所保育指針の乳幼児の視点、領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解し、保育現場における指導力を養う。 [授業全体の内容の概要] 子どもの健康を促進する側に立ったとき、「子どもの生活と健康」に関する現状把握とそれによる課題の特定は重要である。こどもの生活と健康に関する理解を深め、それらの結びつきから健康の実現を促す諸要因の働きについて学んでいく。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの健康に関わる課題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組むことができる素養を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 子どもの生活の変化と健康 2. 幼児期の健康と生活リズム 3. 生活の中での健康づくり 4. 体力・運動能力と動きの獲得 5. 安全の指導及び配慮 6. 領域「健康」のねらいと内容の考え方 7. からだを動かそうとする意欲づくりと充実感を得るための方法 8. 0～2 歳児の遊び 9. 3～5 歳児の生活習慣 10. 3～5 歳児の運動遊び 11. 3～5 の運動遊びの指導 12. 保育者の役割 13. 食育 14. 子どもの生活と健康について振り返る 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・保育内容「健康」(建帛社) ・保育所保育指針 ・プリント配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と人間関係		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・保育内容「人間関係」について、その内容と具体的な指導法を理解する。子どもの目線に立った人間関係の構築とその指導法を習得する。それらを通して、保育現場における洞察力・課題発見能力、更には自己の人間関係形成力を高めることを目指す。 [授業全体の内容の概要] ・園生活における様々な乳幼児の人間関係に関する知識を学び、保育内容「人間関係」のねらい・内容について理解する。併せて、具体的な保育実践事例を通して子どもの人との関わりについて学び、その力を育むための保育者の実践的な援助の在り方について理解を深める。。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育所保育指針における「人間関係」のねらいと内容を理解できる。 ・乳幼児の様々な「人間関係」の育ちや芽生えについて、発達の観点から総合的に理解することができる。 ・乳幼児の人間関係に関する保育事例を通して、保育者としての具体的・実践的な援助方法について考察する力を身に付けることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 私たちにとっての人間関係とは 2. 保育所保育指針の領域「人間関係」 3. 0歳児の人との関わりと保育 4. 1・2歳児の人との関わりと保育 5. 3.4.5歳児の人間関係の育ちを支える 6. 保育指針から見る0歳児の保育 7. 保育指針から見る1歳以上3歳未満児の保育、 8. 保育指針から見る3歳以上児の保育 9. 遊びの中で育つ人とのかかわり 10. 特別な支援を必要とする子どもの人間関係を支える 11. 子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係 12. 育ちを支える保育者同士の人間関係 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係 13. 子どもたちの人間関係を育む学級運営・指導案作成 14. 子どもの生活と人間関係を学んで 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] ・演習 保育内容 人間関係 ―基礎的事項の理解と指導法― (建帛社) ・保育所保育指針解説 (フレーベル館)	

	[参考文献] ・ 幼稚園教育要領解説（フレール館） ・ 最新保育講座8 保育内容「人間関係」（ミネルヴァ書房）
[単位認定の方法及び基準]	・ 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した積極的な行動を編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・ 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と環境Ⅰ		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校で教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育における「環境」の重要性について知り、その役割を活かしながら保育をする土台を養う。 [授業全体の内容の概要] 領域「環境」の位置付け、人的環境・物的環境等の重要性 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもの周りの環境について知る ・子どもと周りの環境を結ぶ大切さを言語化し、実践することができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. オープニング/保育内容 (環境) について① 2. 保育内容 (環境) について② 3. 人的環境について 4. 物的環境について 5. 自然環境について 6. 社会環境について 7. 環境を通した保育とは 8. 領域「環境」と 10 の姿 9. 保育と「色」 10. 保育と「数」 11. 保育と「文字」 12. 保育と「形」 13. 保育と「生命」 14. 領域「環境」の意義 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		事例で学ぶ保育内容 領域環境	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%)	

	・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する（10％）。
--	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と言葉		授業の種類 (講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて 3、4、5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 乳幼児をとりまく環境や他者とのかかわりを通して発達する「言葉」の特性と「言葉」における保育者の役割の重要性がわかる。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児が言葉を獲得する過程を理解し、言葉の発達の背景にある保育内容を考えながら、保育のあり方や援助の方法を学習する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 言葉の基礎が育まれる乳幼児期において、保育者の役割の重要性を学んだ上で、自分自身の言葉のありようを見つめ直し、保育現場で実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育者の言葉 2. 保育者の話し方 3. 子どもの言葉① (言葉の発達) 4. 子どもの言葉② (言葉の発達と個人差) 5. 子どもの言葉③ (音声の発達) 6. 言葉の発達の遅れ 7. 文字の発達 8. 保育者の言語の指導① 9. 保育者の言語の指導② 10. 言葉の指導におけるねらいと内容 11. 絵本の読み聞かせについて 12. 紙芝居の読み聞かせについて 13. 紙芝居の読み聞かせ演習 14. 児童文化教材について 15. 『子どもの生活と言葉』学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		保育内容指導法「言葉」 (萌文書林)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と表現 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3、4,5 歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・保育園で日常的に 歌われる歌にできるだけ多く触れ、歌唱・手あそび歌・リトミック・わらべうた等の様々なかたちで現場に活かせるよう実践力と表現力を身につける。 [授業全体の内容の概要] ・園生活の歌・行事の歌・童謡等多くの歌を歌い、手あそび・ふれあいあそび・リトミック・わらべうた等の実際に保育園で役立つ音楽表現の演習を行う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・園生活の歌や童謡等を保育士にふさわしい声量と音程・表情で幅広く歌う技術を身に着け、場面に応じたものが提供できる。 ・年齢や季節に即した表現活動を理解し、簡単な導入を交えて音を通した表現あそびの支援ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 4 月の歌 (ちょうちょ、チューリップ他)、自己紹介手遊び、春の手遊び歌 2. 5 月の歌 (こいのぼり、おかあさん他) 、食べ物に関連した手遊び歌 3. 6 月の歌 (カエルの歌、かたつむり他)、輪唱の体験、導入に適した手遊び歌 4. 7 月の歌 (たなばた、みずあそび他) 、生活歌を学ぶ、夏の手遊び歌① 5. 8 月の歌 (おばけなんてないさ、うみ他)、夏の手遊び歌②、リズム遊び① 6. 9 月の歌 (とんぼのめがね他)、文部省唱歌を学ぶ 7. 10 月の歌 (どんぐりころころ他 、わらべ歌について学ぶ 8. 11 月の歌 (まつぼっくり、もみじ他)、秋の手遊び歌、触れ合い遊び 9. 12 月の歌 (雪のこぼうず 、ジングルベル他)、ゲーム手遊び、リズム遊び② 10. 1 月の歌 (お正月、ゆき等)、ジャンケン手遊び、リトミックについて学ぶ 11. 2 月の歌 (まめまき 他)、冬の手遊び歌、リズム遊び③ 12. 3 月の歌 (思い出のアルバム 他) 13. 手遊び発表の計画作り 14. 手遊びの実技テスト 15. これまでの学習まとめと振り返り			
[使用テキスト・参考文献]		・「こどものうたベストテン」(ドレミ楽譜出版社) ・「手あそび百科」(ひかりのくに) ・適宜プリント配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(ペーパー試験40%、実技試験40%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(20%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(10%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	---

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業科目名 保育の身体表現Ⅰ			授業の種類（講義・演習・実習）	
授業担当者 平沢 康子		実務経験	公益財団法人において、未就園児から小学生、大人までを対象とした、スポーツ教室の指導者として従事。また、行政と連携し、専門職を対象とした講演や研修、子育て支援事業に携わった。	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）		配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 現代の子どもを取り巻く環境から必要な運動ならびに遊びを展開できるようになる。実際に、運動遊びを体験していくなかで、多くの動作の組み合わせ方、様々な遊具の使い方、遊具やその場の意味づけ、その場の雰囲気やルールづくりを具体的な展開ができるようになる。				
〔授業の全体の概要〕 各種の身体表現（運動遊び、リトミック、ダンス等）を通して、子どもの生きる力を育てるための知識や技能を学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題（到着目標）〕 1. 子どもを取り巻く環境等をふまえ、身体表現の重要性を理解する。 2. 乳幼児期の心身の発達に適した指導法を理解する。 3. 運動遊びの具体的な内容と効果的な手法を理解する。 ＜実技＞ 4. リトミックの基礎理論と基本の動きを習得する。 5. リズム表現に必要な動きのバリエーションや歌・手遊びなどを習得する。 6. 多様な動きづくりのための運動遊びを習得する。				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1. 授業の概要説明				

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル（科目名） 保育の音楽表現Ⅰ		授業の種類（ 講義・ 演習 ・ 実習 ）			
授業担当者 佐々木陽子	実務経験	文化庁登録アーティスト、長岡市アウトリーチ事業の登録アーティストの経験を持つ。現在は、長岡市アウトリーチ事業の伴奏アーティスト、ピアノソロ演奏の音楽活動の他、ピアノ教室主催、保育園・こども園などの音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導経験を持つ。			
授業担当者 玉橋寿子	実務経験	ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導を行っている。			
授業担当者 江口裕子	実務経験	中学校にて講師の経験を持ち、ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導に携わっている。また、高齢者施設において演奏活動も行っている。			
授業の回数 20 回	時間数（単位数） 40 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 保育現場で必要とされるピアノ演奏・童謡の弾き歌いをする為に、基礎的な音楽理論、コード奏法に基づく童謡等のピアノ演奏を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 基礎的な音楽理論の他、ピアノ奏法の基本、コード奏法、簡単な童謡の両手奏を習得する。 個人レッスン内においては、コード奏法に基づく童謡等のピアノ演奏を学ぶ。 歌唱教材伴奏法を基にした「基礎トレーニング」を用いて、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ピアノを演奏する為の楽譜の読み方を理解する。 ・ハ・ト長調のスケールカデンツが弾ける。 ・ハ・ト長調の童謡をコード奏法で両手奏ができる。 ・歌唱教材伴奏法より抜粋 「基礎トレーニング」でピアノ演奏の基本を習得する。 ・基本的な音楽理論を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]（担当：佐々木陽子）					
コマ数	理論	音符カード	音読み	スケール・カデンツ	実践
1	・楽譜のしくみ ・音名	↓	↓	ハ長調	・ピアノを弾く姿勢・運指他 ・こぎつね ・手をたたきましょう
2	・音符と休符				
3	・小節 ・拍子とリズム				
4	・音階と調				
5	・音楽に表情をつける演奏記号				
				ト長調	
(担当：江口裕子 佐々木陽子 玉橋寿子 渡邊若菜)					
	歌唱教材伴奏法による「基礎トレーニング」		実践曲		スケール・カデンツ
6	個人の進捗状況に合わせて指導を受ける。		① こぎつね(ハ長調)		ハ長調
7			② こいぬのマーチ		ト長調
8			③ 手をたたきましょう		
9			④ めだかのがっこう		
10			⑤ 大きなくりの木の下で		

11		⑥ ぶんぶんぶん(ト長調)	
12		⑦ ジングルベル	
13		⑧ みずあそび	
14			
15			
16			
17			
18			
19	筆記試験 個人レッスン		
20	①～⑧の習得状況の確認		
＊基礎トレーニング・実践曲・スケールカデンツ共に習得出来た段階で、担当講師にチェックシートに合格印をもらうこと。			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] 歌唱教材伴奏法(教育芸術社)を元とした「基礎トレーニング集」 子どものための音楽表現 (萌文書林) こどものうたベストテン (ドレミ楽譜出版社)	
[単位認定の方法及び基準]		[単位認定の方法及び基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・筆記試験 ・学習(授業)態度 ・授業内における小テストグレードの取得級 ・期末考査(筆記試験、実技試験)	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の音楽表現Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)																																	
授業担当者 佐々木陽子	実務経験	文化庁登録アーティスト、長岡市アウトリーチ事業の登録アーティストの経験を持つ。現在は、長岡市アウトリーチ事業の伴奏アーティスト、ピアノソロ演奏の音楽活動の他、ピアノ教室主催、保育園・こども園などの音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導経験を持つ。																																	
授業担当者 玉橋寿子	実務経験	ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導を行なっている。																																	
授業担当者 江口裕子	実務経験	中学校にて講師の経験を持ち、ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導に携わっている。また、高齢者施設において演奏活動も行っている。																																	
授業の回数 20 回	時間数 (単位数) 40 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修																																
[授業の目的・ねらい] 保育現場で必要とされるピアノ演奏・童謡の弾き歌いをする為に、発声法・ピアノ奏法・コード奏法に基づく弾き歌い・表現の仕方を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 発声の基本、歌唱表現の方法、保育現場における音楽・ピアノの役割と表現について学び、習得する。 個人レッスン内においては、コード奏法に基づく童謡等のピアノ演奏と弾き歌いについて学ぶ。 歌唱教材伴奏法より抜粋 「基礎トレーニング」でピアノ演奏の基本を習得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 歌唱の為の呼吸法と発声法を理解する。 簡単な童謡の両手奏による弾き歌いができる。 ハ・ヘ・ト長調のスケールカデンツが弾ける。 ハ・ト・ヘ長調の童謡をコード奏法で弾き歌いができる。 グレード5級の取得。 歌唱表現のための楽譜のよみ方を理解する。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (担当：佐々木陽子) <table> <tr> <td>コマ数</td><td>音楽基礎</td><td>スケール・カデンツ</td><td>実践</td></tr> <tr> <td>1</td><td>弾き歌いの方法</td><td>ハ・ト長調 ヘ長調</td><td>・ とんぼのめがね ・ どんぐりころころ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>歌唱表現のための楽譜のよみ方</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>ピアノ奏法の基本</td><td></td><td>・ チューリップ ・ おかたづけ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>保育現場におけるピアノの役割</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>保育現場におけるピアノの表現方法</td><td></td><td>・ 弾き歌い発表会</td></tr> </table> ----- (担当：江口裕子 佐々木陽子 玉橋寿子) <table> <tr> <td>コマ数</td><td>歌唱教材伴奏法による基礎トレーニング</td><td>実践曲</td><td>スケール・カデンツ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>個人の進捗状況に合わせて指導</td><td>①とんぼのめがね (ハ長調)</td><td>ハ長調</td></tr> </table>				コマ数	音楽基礎	スケール・カデンツ	実践	1	弾き歌いの方法	ハ・ト長調 ヘ長調	・ とんぼのめがね ・ どんぐりころころ	2	歌唱表現のための楽譜のよみ方			3	ピアノ奏法の基本		・ チューリップ ・ おかたづけ	4	保育現場におけるピアノの役割			5	保育現場におけるピアノの表現方法		・ 弾き歌い発表会	コマ数	歌唱教材伴奏法による基礎トレーニング	実践曲	スケール・カデンツ	6	個人の進捗状況に合わせて指導	①とんぼのめがね (ハ長調)	ハ長調
コマ数	音楽基礎	スケール・カデンツ	実践																																
1	弾き歌いの方法	ハ・ト長調 ヘ長調	・ とんぼのめがね ・ どんぐりころころ																																
2	歌唱表現のための楽譜のよみ方																																		
3	ピアノ奏法の基本		・ チューリップ ・ おかたづけ																																
4	保育現場におけるピアノの役割																																		
5	保育現場におけるピアノの表現方法		・ 弾き歌い発表会																																
コマ数	歌唱教材伴奏法による基礎トレーニング	実践曲	スケール・カデンツ																																
6	個人の進捗状況に合わせて指導	①とんぼのめがね (ハ長調)	ハ長調																																

を受ける。 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 ①～⑨の習得状況の確認 ＊グレード・実践曲・スケールカデンツ共に習得出来た段階で、担当講師にチェックシートに合格印をもらうこと。	②どんぐりころころ ト長調 ③チューリップ (ヘ長調) ヘ長調 ④きらきら星 ⑤まつぼっくり ⑥おしょうがつ ⑦山の音楽家 ⑧まめまき ⑨おもいでのアльバム
[使用テキスト・参考文献]	[使用テキスト] 歌唱教材伴奏法(教育芸術社) 子どものための音楽表現(萌文書林) [参考文献] こどもの歌ベストテン(ドレミ楽譜出版社)
[単位認定の方法及び基準]	[単位認定の方法及び基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・授業内における小テスト ・学習(授業)態度 ・グレードの取得級 ・期末考査(実技試験)

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の造形表現Ⅰ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 溝口 敏美	実務経験	県立高等学校および県内の専修学校にて、美術科目の講師として長年学生指導に従事している。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 造形の基礎を身につけ、美的感性を磨き、多様な表現、想像力を養う。 [授業全体の内容の概要] 絵画、彫塑、デザインの基礎学習と創作活動 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・材料、用具の特性と造形の基礎を理解し、楽しみながら意欲的に造形活動を行ったか。 ・作品が新鮮で魅力的な創意に満ちたものがあるか。 多様な表現活動に自身の創作技術の確認と向上することを目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
基本的な描写力、観察力の育成 1 ～ 3 オリエンテーション 各素材、道具の説明、描くことの意義の説明 (面どり技法) ①鉛筆デッサン→画用紙に鉛筆で線描を描く (平面) ②鉛筆デッサン→画用紙に立体表現 (立方体) 4 ・ 5 水彩画を描く静物画、具象、抽象、心像画 各テーマを決めて作成する。 6 ・ 7 スタンプ画 (押す、伸ばす、ひっかく) 8 感情表現 (素直に感情を表現することができるか。悲しみ、怒り、喜び、愛) 9 ～ 14 大きな愛の作成 物語のイメージを表現して第3者に伝わるか。多数の人と仲良く計画性を持ち、表現できるか。 15 各自の作品の鑑賞会の後、試験。			
[使用テキスト・参考文献]		なし	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 作品評価、授業態度、授業内容の把握、作成意欲	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の言語表現		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 三上真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 領域の1つである言葉の獲得に関する領域「言葉」の内容・方法、乳幼児の言葉の発達理解を深めるとともに実践力を身につける。 [授業全体の内容の概要] 領域の1つである「言葉」の内容・方法、乳幼児の言葉の発達理解を深めるとともに児童文化財等の持つ意義を認識し、実践にいかせる実演を中心に行う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 領域「言葉」のねらいや内容、乳幼児の言葉の発達を理解し、さまざまな児童文化財等の実演を通して、実践に応用できる力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 紙芝居とは(講義) 手作り紙芝居のテーマ決め・計画書作成(一人8～12場面＊しかけを2か所以上入れる) 2. 手作り紙芝居(下書き) 3. 手作り紙芝居(下書き) 4. 手作り紙芝居(下書き) 5. 手作り紙芝居(色塗り) 6. 手作り紙芝居(色塗り) 7. 手作り紙芝居(色塗り) 8. 手作り紙芝居(色塗り) 9. 手作り紙芝居(色塗り) 10. 手作り紙芝居(色塗り) 11. 手作り紙芝居の裏に台本を書き、完成させる。 12. 手作り紙芝居発表会、袋作成 13. 手作り紙芝居振り返り、創作劇とは、創作劇(パペット)の計画書作成、グループ分け 14. 創作劇(パペット)の練習 15. 創作劇(パペット)の発表、振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 適宜配布する		・参考文献を適宜紹介する。	
[単位認定の方法及び基準]		・出席状況、授業態度、製作物、実演発表などの総合評価	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 乳児保育 I		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 乳児保育の意義・目的を踏まえ、保育所・乳児院などの乳児保育の現状を理解できる。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育を理解できる。乳児保育における職員間の連携について理解できる。 [授業全体の内容の概要] 3歳未満児の発達を理解するため基本的視点及び、発達段階を学ぶ。乳児保育の意義・目的・変遷・役割を学ぶ中で「養護」に対する基本的な考え方と心構えを取得する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・3歳未満児におけるそれぞれの時期の成長発達の特徴がわかる。 ・乳児保育の意義・目的がわかる。 ・3歳未満児におけるそれぞれの時期へのふさわしい関わり方がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 乳児保育とは 2. 0歳児前半の発達の特徴(姿勢・運動・手指の発達) 3. 0歳児前半の発達の特徴(社会的交流の力の発達・生理的リズムから社会的リズムへ) 4. 0歳児後半の発達の特徴(姿勢・運動・手指の発達) 5. 0歳児後半の発達の特徴(言語・認識・対人関係の発達) 6. 1歳児の発達の特徴(全身運動・手指の操作) 7. 1歳児の発達の特徴(言語・認識・発達・自我の発達) 8. 2歳児の発達の特徴 9. 乳児期の体 10. 乳児期に見られる病気と症状 11. 乳児の症状についての考え方 12. 乳児の養護 13. 乳児の養護の実際(演習) 7/2 14. 「乳児保育 I」を学んで 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		テキスト乳児保育改定新版	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 乳児保育Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解し、具体的な養護や配慮、関わり方を習得する。 [授業全体の内容の概要] 「乳児保育Ⅰ」で得た知識を基に、保育所における3歳未満児の基本的生活に沿って、その特徴を踏まえた各時期に必要な保育方法について、演習を通して習得していく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育所における乳児保育の基本的養護を実践できる。 ・3歳未満児の各時期の発達の特徴を踏まえた援助のポイントがわかる。 ・3歳未満児の各時期の発達の特徴を踏まえた保育方法がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 乳児の「泣き」について 2. 乳児のイヤイヤ期 3. 乳児期のかみつき 4. 排泄の自立に向けた援助 5. 乳児保育の環境と安全対策 6. 調乳と哺乳瓶の衛生管理 7. 調乳演習 10/15 8. 乳児の養護 9. 沐浴・皮膚の健康 10. 乳児への保健的対応演習(沐浴・授乳・身体測定) 11/5 11. 離乳食の基礎知識 12. 離乳食の実際 13. 子どもを健康に育てるために 14. 「乳児保育Ⅱ」を学んで 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		テキスト乳児保育改定新版	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの健康と安全		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 星名陽太	実務経験	保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任に携わる。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 望ましい保育環境とは何か、子どもの健康と安全のために保育者にできることは何かについて学び、保育における保健的観点を踏まえた環境や援助について理解できる。更に子どもの健康及び、安全の管理に関わる具体的な実践力を習得できる。 [授業全体の内容の概要] 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 望ましい保育環境とは何か理解できる。 ・ 保育における健康安全管理の実践がわかる。 ・ 体調不良の子どもへの対応がわかる。 ・ 感染症の予防と対策がわかる。 ・ 保育所における保健的対応がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 本講義についての説明および学習にあたっての目標設定 2. 子どもの健康と救急処置 (演習) 3. 事故防止と安全対策 4. 障害のある子どもへの対応 5. 室内での安全管理 6. 戸外での安全管理 7. 災害への備えと危機管理 8. 子どもの体調不良等に対する対応 9. 子どもの体調不良等が起こった際の保護者支援 10. 薬への対応 11. アナフィラキシーとその対応 12. 感染症集団発生の予防 13. 感染性胃腸炎嘔吐物の処理演習 14. エピペン講習・実践 15. 「子どもの健康と安全」学びのまとめ			
使用テキスト・参考文献]		授業で現場で役に立つ！ 子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第 3 版 (診断と治療者)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した積極的な行動を編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 障害児保育 I		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 本間 初江	実務経験	長岡市公立保育園で幼児教育や保護者支援に従事。 市役所で発達障害や虐待の支援にも従事する。 退職後は研修や園力アップの講師や園支援を担う。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・単に障害種別、程度による子ども理解にとどまらず、子どもたち一人ひとりの保育ニーズを把握し、子どもの自立と社会参加を可能にするにはどのような支援が必要なのか知る。 [授業全体の内容の概要] ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できる。 ・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・障害をもつ子どもとその家族を取り巻く状況や環境について知り、保育の方法や支援について説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 障害児保育とは 2. 障害児保育の基本 3. 障害の理解と保育① (知的障害) 4. 障害の理解と保育② (肢体不自由・重症心身障害／聴覚障害／視覚障害／言語障害) 5. 発達が気になる子どもの理解と保育 6. 障害の理解と保育③ (自閉症スペクトラム障害／学習障害) 7. 障害の理解と保育③ (注意欠如・多動性障害) - 多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 (外国につながる子ども／子どもの貧困) 8. 子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価 9. 個々の発達をうながす生活や遊びの環境 10. 他者との関りと育ちあい 11. 職員間の協力関係 12. 家庭や関係機関との連携 13. 障害のある子どもの早期発見と支援 - 障害のある子どもの就学に向けての支援 14. 障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題 - 支援の場の広がりにつながり 15. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		実践に生かす障害児保育・特別支援教育 (萌文書林)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 障害児保育Ⅱ		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 本間 初江	実務経験	長岡市公立保育園で幼児教育や保護者支援に従事。 市役所で発達障害や虐待の支援にも従事する。 退職後は研修や園力アップの講師や園支援を担う。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 障害の種類や特性、障害児保育のあり方など、障害児保育に関する知識を得、理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、達目標に沿って具体例を理解しながら内容を習得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 様々な障害の特性を理解し、一人一人の発達に合わせた援助について理解する。 ・ 個別の保育計画を作成し、集団生活の中でも対象児の発達に合わせた成長を促すことができる保育に理解する。 ・ 障害をもった子どもの保護者への援助方法や、関係機関との連携により、障害児を支える仕組みについて理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. ライフステージを見通した障害児保育 2. 障害と出会う時・障害受容 3. 障害児保育の基本・統合保育 4. 障害の理解と支援～ 発達障害 (自閉症 ADHD LD) 5. 障害の理解と支援～ 知的障害 言語障害 6. 障害の理解と支援～ 肢体不自由 聴覚障害 7. 障害の理解と支援～ 視覚障害 病弱 8. 障害の理解と支援～ 気になる子 (グレーゾーンの子) 9. 障害の理解と支援～ 重症心身障害や医療的ケア 福祉と教育 10. 様々な連携 11. 小学校とのなめらかな接続 12. 思春期・青年期の生活 13. これまでの障害児保育・これからの障害児保育 14. 「ライフステージを見通した障害児保育」の 学び のまとめ 15. 試験			
[使用テキスト・参考文献]		ライフステージを見通した障害児の保育・教育 みらい	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子育て支援		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 内山 麗子	実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教諭として 13 年勤務。乳幼児発達コーディネーターとして、子どもの発達や育ちについて講座や講演を行っている。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育所・認定こども園などにおいて、保育者が行なう子育て支援の理論やその方法について学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・「子どもの育ち」に繋がる子育て支援のあり方とその意義について理解する。 ・子育て支援における保育者の役割と職務内容を把握する。 ・さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 子育て支援とは何か、子育て支援の意義 2. 子育て支援の基本的価値・倫理 3. 子育て支援の基本的姿勢 4. 子育て支援の基本的技術 5. 園内・園外との連携と社会資源 6. 記録・評価・研修 7. 日常会話を活用した子育て支援 8. 文書を活用した子育て支援 9. 行事などを活用した子育て支援 10. 環境を活用した子育て支援 11. 地域子育て支援拠点における支援 12. 入所施設における子育て支援 13. 通所施設における子育て支援 14. 「子育て支援」の学びのふりかえり 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] ・子育て支援～15 のストーリーで学ぶワークブック～二宮祐子 (萌文書林) [参考文献] ・子育て支援 伊藤篤 (ミネルヴァ書房)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習指導 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務し、0～5歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 1年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 保育所・施設などの機能や内容、保育士としての職務について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 保育実習の意義と目的について理解する。 ・ 実習に向けて、自分自身にどのような準備が必要なのかそれぞれの自己課題を見出し、そこへの意識付けを行う。 ・ 実習生として最低限必要なマナーや守秘義務等の姿勢を身に付けると共に、記録をとる際の技術習得を目指す。 ・ 自らの指導案作成を通しては、計画・実践・省察(評価)のサイクルへの理解を深める。 ・ 実習後には実習全体を通した振り返りを行い、個々の課題を抽出し次回実習への改善点を把握することができる。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 実習などを通して各自の保育観・児童観を身に付ける。 ・ 実習の重要性を体感することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 自己紹介ボードの説明、計画 2. 自己紹介ボード作成① 3. 自己紹介ボード作成②、 4. 自己紹介ボード発表と提出/実習エプロン説明、計画立てる 5. 実習エプロン制作① 6. 実習エプロン発表②/保育実習の目的について知る。/施設実習に向けての調べ学習 7. 保育実習の意義や意図を理解する 8. 施設実習の実際 9. 実習日誌の目的・意義・意図 10. 日誌には何を書くのか 11. 日誌の書き方 12. 動画を観て事実・思ったことを書く 13. 「思ったこと」と「気づき」の違い 14. 文化財教材について、選び方、使い方 15. 文化財教材の実践(模擬保育)		16. 夏休みの課題(実習用エプロン2枚目)回収および発表、保育教本の読み合わせ/日誌の書き方復習 17. 保育園と幼稚園の一日/保育実習 I (保育所) 実習園発表、園調べ、概要下書き、実習の手引き配布 18. DVD を観て日誌に書き起こす 19. 指導案について、指導案作成(導入～ペープサート) 20. 学生調書・臨むにあたり下書き、10日間のねらい 21. 誓約書・学生調書(保.施2枚作成)、臨むにあたり清書/出勤簿・7点セットについて 22. 実習前オリエンテーションとは/宣誓文下書き 23. 保育園実習オリテの予約電話、実習の流れ・	

振り返り	まとめについて 24. 施設実習先発表、概要・誓約書・臨むにあたり、10日間のねらい下書き、清書 25. 施設実習オリテの予約電話/日誌の書き起こし練習 26. 手引き読み合わせ実習評価・実習のまとめ・お礼状についての説明、持ち物検査/指導案（導入～ゲーム運営） 27. 出発式・身だしなみ検査、実習ファイル配布 28. 保育所実習の振り返り、10日間のねらい見直し、施設実習の日誌とは 29. 施設支援案作成、エピソード記録 30. 実習ファイル配布、手引き読み合わせ、身だしなみ検査
[使用テキスト・参考文献]	・実習の記録と指導案（ひかりのくに） ・福祉施設実習ハンドブック（みらい） ・mew 保育教本（オリジナルテキスト） ・実習の手引き ・その他参考資料を適宜配布
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・出席・提出物・授業態度などの状況、課題日誌の到達度などから判断する。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実践演習		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3、4、5歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員等に従事した。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 保育養成における学びが実際の保育にどのようにつながっていくのかを、学生自ら課題に気づき意識して保育実践に挑むことが出来る。 [授業全体の内容の概要] ・ 前半では主に児童文化財の実践効果について学び、実際にパネルシアターを製作しその技法を身につける。後半これまでの取り組みを振り返り自己理解を深めたうえで保育実践の持つ意義を理解し、保育者としての仕事の準備となる知識を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 児童文化財で実践の場へつなげる為の知識・技術(パネルシアター)を習得する。 ・ 保育家原義での具体的な事例・問題へ取り組むことで、保育者の実践について理解を深める。 ・ 保育者としての使命感・責任感・倫理観を理解し、自信をもって保育専門職としての仕事に挑む姿勢を持つ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 様々な児童文化財について 2. パネルシアターによる効果と技法について 3. パネルシアター制作の計画 4. パネルシアター制作の実践 5. パネルシアター制作の実践 6. パネルシアター制作の実践 7. パネルシアター実技実践 8. 絵本による効果と技法について 9. 絵本制作の計画 10. 絵本の制作 11. 絵本の制作 12. 絵本の制作 13. 絵本の制作 14. 絵本の制作 15. 絵本の実技実践		16. 保育・教職実践演習の目的 17. 行動を客観視する力 18. 保育職の意義と役割 19. 求められる資質能力 20. 教育課程・保育過程に関する基礎知識① 21. 教育課程・保育過程に関する基礎知識② 22. コミュニケーション① 23. コミュニケーション② 24. 他者との協力 25. 保育園における行事の考え方 26. 学びのまとめ 27. 保育実践計画 28. 保育実践準備 29. 保育実践① 30. 保育実践②	
[使用テキスト・参考文献]		必要に応じて資料プリント配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 スポーツ理論		授業の種類 (☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 太田 理絵	実務経験	長岡市の体育行政に長く関わり、教育委員会の事業や研修会のパネリストとして活躍、現場敬遠も豊富	
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 15 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ライフステージ各期の目指すべき健康像を把握し、それを実現するための知識を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 生きるための心身の健康について考えるとともに、身体の機能を知り効率的に健康の維持増進に対する理解を深める。また、スポーツへの関わり方への理解を深めることにより、自身の健康観について考えられるようになる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 年齢に合った健康な体力作りとその管理、維持、増進のための適切な運動、休養に対する知識を身につけ習慣化する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
[健康について] 1. 現代の生活と健康と心の健康 2. 現代の社会と食生活と健康 [運動について] 3. 健康との関係からみた体力と体力の構成要素について 4. 身体活動と健康について 5. 運動の必要性について [スポーツについて] 6. スポーツをする意義について 7. 「する」「みる」「ささえる」スポーツと私たちができること 8. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] なし (適宜必要なプリントを配布) [参考文献] 大学生の健康・スポーツ科学 (道和書院) 編著者 大学生の健康・スポーツ科学研究会	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(60%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(40%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(20%) ・授業への取り組む姿勢について関心や意欲を評価する。(20%)。	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 スポーツ実技		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実技 ）	
授業担当者 太田 理絵		実務経験	長岡市の体育行政に長く関わり、教育委員会の事業や研修会のパネリストとして活躍、現場経験も豊富
授業の回数 23 回	時間数（単位数） 45 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）
〔授業の目的・ねらい〕 運動を通してコミュニケーション能力や協調性を高める。また、自身の健康の維持、増進の方法としてのスポーツについて考え、実行できるようになる。 〔授業全体の内容の概要〕 生きるための心身の健康についての意味について理解を深める。また、身体運動を通してコミュニケーション能力や協調性を養う。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 自己の健康観を確立し、生涯スポーツとして運動に親しむ資質や能力を養う。自身の心身の健康の維持、増進を、日々の生活の中で実践できる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数			
1. オリエンテーション① 2. オリエンテーション② 3. 実技 4. 実技 5. 鉄棒・マット 6. 鉄棒・マット 7. 実技 8. 実技 9. 実技 10. 実技 11. 実技 12. 実技 13. 創作体操① 14. 創作体操②		15. 創作体操③ 16. 創作体操④ 17. 実技 18. 実技 19. 実技 20. 実技 21. 実技 22. 実技 23. 実技 ※種目については、ニュースポーツ、ネット型スポーツ（インディアカ、ソフトバレー、ミニテニス）レクリエーションスポーツ各種、鉄棒・マット、体操など	
〔使用テキスト・参考文献〕		なし	
〔単位認定の方法及び基準〕		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 授業への取組(60%) ・授業へ取り組む姿勢、出席状況、点呼時の返事、服装、移動	

	時の様子、安全面への配慮などを重視し評価する。 2. 平常点(40%) ・他者とコミュニケーションを図り、積極的に参加する姿勢を評価。(20%) ・練習や試合などに対し積極的に参加している姿勢を評価。(20%)。
--	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 専門演習		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 三上真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育者養成における学び、及び保育実習での経験を振り返ることで、これらが実際の保育にどのようにつながっていくのかを考えることで職業意識を養うとともに、自らの課題を見つけて問題解決能力を養う。 [授業全体の内容の概要] 毎回のテーマに沿って自分自身の保育実践を客観的に振り返る。各自が抱えている課題について、学生同士でも討論を設け、改善に向けての方策を見つけ、実践への積極的態度を養う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・授業を通して自分の課題を明確化し、実習での学びが保育者という職業への意欲の高まりへとつながられる。 ・他者の課題や学びの成果を共有することで、様々な保育観・保育方法を知り、新しい視点で保育を考えるヒントを得ることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 実習を振り返り実習生としての姿勢を評価する。 2. 評価とは何か～自己評価と他者評価～ 3. 実習を通して印象に残ったことを振り返る 4. 保育者から学んだことを振り返る 5. 子ども達から学んだことを振り返る 6. 実習園の指導者からのアドバイスを振り返る 7. 部分実習・責任実習の成功・失敗体験を振り返る 8. 指導計画の重要性を理解する 9. 実習を終えて自分自身の変化を明確にする 10. 自分の保育技術・適正について振り返る 11. 学びの成果をまとめる 12. 学びの成果をまとめる 13. 学びの成果を共有する(実習報告会) 14. 学びの成果を共有する(実習報告会) 15. 更なる自己研鑽への道を明確にするために			
[使用テキスト・参考文献]		適宜プリントを配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 Ⅰ. 平常点(100%) ・授業への参加状況では積極的態である点を評価する。(30%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(70%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務し、0～5歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 ・自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、保育実習Ⅰ(施設)の課題をあげる。施設実習、施設保育士とは。 2. 保育実習Ⅰ(施設)の実習先施設の発表、園調べ、概要作成(下書き)。誓約書と調書の作成(調書はⅡ.Ⅲ用に2枚作成)、臨むにあたり下書き～清書。 3. オリテの話をし、予約を取る・概要用紙(清書用)配布 4. 実習に必要な書類の完成確認。10日間のねらい作成。入所者の方との会話練習 5. 部分支援案 6. DVD視聴。エピソード記録について学ぶ。 7. 日誌用紙配布、身だしなみ検査 8. 保育実習Ⅰ(施設)の振り返り、保育実習Ⅱ.Ⅲの課題をあげる。保育実習Ⅱ.Ⅲの実習先施設の発表、園調べ、概要作成(下書き)。誓約書と調書(2の授業で作ったもの)に書き加えて完成)の作成。臨むにあたり下書き～清書。 9. プレ部分実習 立案(全日&部分実習案作成) 10. プレ部分実習 実践 10日間のねらい 11. 指導案(プレ部分実習の案)勉強会・保育実習Ⅱ.Ⅲオリテ電話 12. 新作手遊び・レク勉強会 立案 13. 新作手遊び・レク勉強会 実践 14. 保育の場面を想定した気づきの練習、エピソード記録の作成 15. 日誌用紙配布、責任実習の流れ確認、身だしなみ検査			

[使用テキスト・参考文献]	・ m e w 保育教本 ・ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画（萌文書林） ・ 実習の手引き（本校作成冊子） ・ 必要に応じて資料プリントを配布
[単位認定の方法及び基準]	出席・提出物・授業態度などの状況から判断する。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務し、0～5歳児の担任業務に従事。また、担任業務の他、実習生指導を行った。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 ・自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、保育実習Ⅰ(施設)の課題をあげる。施設実習、施設保育士とは。 2. 保育実習Ⅰ(施設)の実習先施設の発表、園調べ、概要作成(下書き)。誓約書と調書の作成(調書はⅡ.Ⅲ用に2枚作成)、臨むにあたり下書き～清書。 3. オリテの話をし、予約を取る・概要用紙(清書用)配布 4. 実習に必要な書類の完成確認。10日間のねらい作成。入所者の方との会話練習 5. 部分支援案 6. DVD視聴。エピソード記録について学ぶ。 7. 日誌用紙配布、身だしなみ検査 8. 保育実習Ⅰ(施設)の振り返り、保育実習Ⅱ.Ⅲの課題をあげる。保育実習Ⅱ.Ⅲの実習先施設の発表、園調べ、概要作成(下書き)。誓約書と調書(2の授業で作ったもの)に書き加えて完成)の作成。臨むにあたり下書き～清書。 9. プレ部分実習 立案(全日&部分実習案作成) 10. プレ部分実習 実践 10日間のねらい 11. 指導案(プレ部分実習の案)勉強会・保育実習Ⅱ.Ⅲオリテ電話 12. 新作手遊び・レク勉強会 立案 13. 新作手遊び・レク勉強会 実践 14. 保育の場面を想定した気づきの練習、エピソード記録の作成 15. 日誌用紙配布、責任実習の流れ確認、身だしなみ検査			

[使用テキスト・参考文献]	・ m e w 保育教本 ・ 福祉施設実習ハンドブック（みらい） ・ 実習の手引き（本校作成冊子） ・ 必要に応じて資料プリントを配布
[単位認定の方法及び基準]	出席・提出物・授業態度などの状況から判断する。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育原理Ⅱ		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 佐竹 直子	実務経験	保育園・認定こども園・小規模保育園などの運営に管理者として携わる。保育者の質の向上について研究発表の実績がある。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・ 保育の実践を支える理論的な基礎を構築するため、保育の意義と目的を理解する。 ・ 保育に関する法令及び制度を理解した上で、現代で求められている保育内容や保育士の社会的役割について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 子どもの安全管理、保育の歴史および現状と課題、様々な保育思想、子育て支援などの基本的な知識を習得する。また理論だけでなく、必要な時には動画視聴やディスカッション等を通して、将来的に長く活用できる知識の定着を図る。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 保育とは何か、また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察することができる。 ・ 歴史や制度を理解し実践を支えるための基礎知識を幅広く身に付けることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 保育の計画 2. 教育課程の編成・全体的な計画・指導計画の作成 3. 保育の評価・保育の記録と評価 4. 保護者からの苦情への対応 5. 子育て支援の背景 6. 相談援助の体制づくり 7. 園と家庭との連携 8. 保幼小の連携 9. 子どもの安全・虐待・障がい 10. 配慮を要する子どもへの対応 11. 保育者の倫理観・専門性 12. 保育者の専門性の向上 13. 幼稚園・保育園・こども園の違い 14. 保育の現状と課題 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・ 最新 保育原理 (第2版) 教育情報出版 ・ 保育所保育指針解説 (フレーベル館)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 カウンセリング入門		授業の種類（ 講義 ・演習・実習）	
授業担当者 嘉代 由美子		実務経験	私立幼稚園において 3～5 歳児、認定こども園において 0～2 歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（2 単位）	配当学年・時期 2 年・後期	（必修・ 選択 ）
[授業の目的・ねらい] ・ カウンセリングの視点から、他者を捉える ・ 自己理解を深める [授業全体の内容の概要] ・ カウンセリングにおける基本姿勢から、他者との関わり方を理解し、さらにいくつかの方法によって自分自身を見つめ、感情をコントロールする力を学ぶ [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 他者とのコミュニケーションを円滑にし、かつ保護者からの相談に対応する力を養う			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. オリエンテーション、心理学とは何か？ 2. 心理療法 3. 子どもの発達 4. アセスメントとは何か 5. 心理検査 6. 日常の中の子どもの心 7. 話を「聞く」態度から「聴く」態度へ		8. 自己理解を深めよう 9. 気になる子どもへの対応 10. 気になる保護者への対応 11. ストレスマネジメント 12. 援助者自身のケア① 13. 援助者自身のケア② 14. これまでの講義のまとめ 15. 期末テスト	
[使用テキスト・参考文献]		「子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」 西 見奈子 編著、黒山隆太・下田芳幸・松尾伸一 著 萌文書林	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(10%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する（10％）。	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と表現Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(☒ 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 子ども自身が感じたことや、考えたことを自分なりに表現することで、豊かな感性や表現する力が育つことなどを学ぶとともに、それらを援助するための基礎を習得し、実技を体験することで子どもたちへの支援・援助について学習する。 [授業全体の内容の概要] 子どもの表現活動の援助・指導について学ぶ。幼児の表現活動の特徴について理解し、幼児の活動を援助するために必要な基礎技術を身に付ける。また学生自身が表現遊びの計画・実践・評価ができるような参加型の授業を主として学びを深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの表現活動は生活と密接な関係があり、保育の現場において、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培うことの大切さを知る。 ・子どもの表現活動における理論と実践について触れ、保育の現場での指導に役立つ技術とその具体的な方法を取得する。 ・自分自身が、体で様々なことを感じたり、考えたり、表したり、他者との関わりのプロセスを楽しみながらかような活動を通して表現力を高める。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. オリエンテーション オペレッタの導入(オペレッタの視聴、グループ分け、役決め等) 2. オペレッタの準備①、講義①「オペレッタの歴史」 3. オペレッタの準備②、講義②「オペレッタの利点、年齢別活用術」 4. オペレッタの練習①、講義③「オペレッタ指導上の留意点」 5. オペレッタの練習② 6. オペレッタの練習③ 7. オペレッタの練習④ 8. オペレッタ・リハーサル 9. オペレッタの発表 10. オペレッタの振り返り 11. 手話ソングの練習①、講義④「手話ソングの意義と目的」 12. 手話ソングの練習②、講義⑤「手話ソングの指導法」 13. 手話ソング発表会リハーサル 14. 手話ソング発表会 15. 学びの振り返り			

[使用テキスト・参考文献]	適宜、参考文献や資料を配布。
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点（ペーパー試験 50%） 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(50%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（25%） ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する（25%）。

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 子どもの生活と環境Ⅱ		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5 歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導及び巡回をする。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 前期の学びを基礎に保育における環境の役割、子どもの周りの環境の要素を保育に生かす方法を考える。実際に体験する中で保育に生かせる経験を豊かにする。 [授業全体の内容の概要] 季節の行事(遊び)の実施、子どもの生活習慣の自立を促す視覚教材作成等 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの周りの環境について知る ・自然との触れ合いの中で生命の大切さを知る ・子どもと周りの環境を結ぶ大切さを言語化し、実践することができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. オープニング(科目の概要説明、評価、主なスケジュール)/保育内容(環境)と10の姿① 2. 保育内容(環境)と10の姿② 3. 環境を通して行う保育/教育 4. 【行事】ハロウィン(準備①) 5. 【行事】ハロウィン(準備②) 6. 【行事】ハロウィン(実施・振り返り) 7. 【行事】節分(準備①) 8. 【行事】節分(準備②) 9. 【行事】節分(実施・振り返り) 10. 生活習慣の自立を促す保育教材(作成) 11. 生活習慣の自立を促す保育教材(作成～発表) 12. 【行事】クリスマス(準備①) 13. 【行事】クリスマス(準備①) 14. 【行事】クリスマス(準備①) 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		事例で学ぶ保育内容 領域環境	

[単位認定の方法及び基準]	・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・ 授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・ 提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 乳児保育Ⅲ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園で保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 乳児保育における保護者や関係機関との関わりや乳児保育担当者の実際を理解し習得するとともに、3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえて乳児保育担当者としての援助や関わりを習得する。 [授業全体の内容の概要] 乳児保育Ⅰおよび乳児保育Ⅱの学びを総合的に活かし、課題や事例検討を通して、乳児保育の具体的対応について、実際の中で積極的に且つ臨機応変に実践できるような応用力を養う。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・朝の受け入れから降園時の受け渡しまで、乳児保育担当者として必要な考え方がわかる。 ・保育中にアクシデントが生じた際の対応がわかる。 ・乳児保育の記録と連絡帳の記入ができる。 ・相談事例を通して乳児保育担当者としての子育て支援がわかる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 乳児保育の実際(朝の受け入れ) 2. 子どもの健康観察・緊急時の対応 3. 乳児保育の実際(食事) 4. 乳児保育の実際(睡眠) 5. 乳児保育の実際(排泄) 6. 乳児保育の実際(着脱・清潔) 7. 乳児保育の実際(遊び) 8. 乳児保育の実際(降園) 9. 乳児保育の記録と連絡帳 10. 連絡帳記入演習 11. 保護者からの質問や相談に対応する 12. 乳児保育の保育計画 13. 乳児保育のこれまでに知りこれからを考える 14. 「乳児保育Ⅲ」を学んで 15. 学びのまとめ			
[使用テキスト・参考文献]		テキスト乳児保育改定新版	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) - 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	--

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 障害福祉		授業の種類 (☐ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習)	
授業担当者 西脇 秀和	実務経験	市内における放課後デイサービス事業および地域活動支援センター事業にて、障害児(者)支援に従事している。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年後期	(☐ 必修 ☐ 選択)
[授業の目的・ねらい] 障害福祉に関する法制度やサービスなどについて理解を深める。障害のある子どもに対するアセスメントや支援についての理解を深める。 [授業全体の内容の概要] ・ 障害の理念や法律について解説する。 ・ 各障害について理解するとともに、障害のある子どもの支援について学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 障害福祉に関する法制度やサービスについて理解し、現状とその課題について考えることができる。 ・ 障害や障害のある子どもについて理解を深め、生活実態を把握することができる。 ・ 傷害のある子どもに対する支援について理解し、その実践について自身の考えを持つことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. “障害”の捉え方 2. 障害福祉とは何か 3. 障害福祉の法制度とサービス 4. 身体障害児・者の理解と支援 5. 知的障害児・者の理解と支援 6. 発達障害児・者の理解と支援 7. ASDの理解と支援 8. 自閉症児・者の理解と支援 9. ADHD(注意欠陥・多動性障害)の理解と支援 10. LD(学習障害)の理解と支援 11. 就学・就労支援に向けて① 12. 就学・就労支援に向けて② 13. 障害者の社会参加の援助 14. 「障害福祉」の学びとまとめ 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献]		障害児保育 ～子どもとともに成長する保育者を目指して～ (萌文書林)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では、発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する(10%)。
----------------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 創作活動		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3、4、5歳児の担任。市立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・保育者として様々な保育教材を用いて、子どもの遊びをサポートする技能を習得する。 ・保育教材を自ら手作りすることによって、教材への愛着を持つと共に、教材に仕掛けや工夫を凝らし、創造力をより膨らませそれを形に起こすまでの過程を体験する。 [授業全体の内容の概要] ・保育現場で実際に即使用できる保育の小道具・教材作りを行う。 ・エプロンシアター、手袋シアター、ペープサート等の制作および実演を行い、保育の技術の幅を広げる機会とする。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・実習や保育の現場で使用できるオリジナルの保育グッズの完成を目指す。 ・また、ただ美しく完成させるだけでなく、作ったものを活用できる実践力や実演する上で工夫なども共に身に付ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
【 授業計画 】 1. オリエンテーション、ペープサートの導入・計画 2. ペープサートの作成① 3. ペープサートの作成② 4. ペープサートの発表・提出 5. エプロンシアターの導入・計画 6. エプロンシアターの作成① 7. エプロンシアターの作成② 8. エプロンシアターの作成③ 9. エプロンシアターの作成④ 10. エプロンシアターの発表・提出 11. 手袋シアター作成の導入・計画 12. 手袋シアターの作成① 13. 手袋シアターの作成② 14. 手袋シアターの作成③ 15. 手袋シアターの発表・提出			
[使用テキスト・参考文献]		・適宜、参考プリントを配布	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(60%) - 到達目標の修得状況を測るために、制作した作品の出来栄を客観的視点から評価したものを点数に換算する。 2. 平常点(40%) ・授業への参加状況、制作態度、発言回数を評価する。 ・課題発表において、作品を生かすための演じ方を取り入れた場合にはその工夫を評価する。
----------------------	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の音楽表現Ⅲ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐々木陽子	実務経験	文化庁登録アーティスト、長岡市アウトリーチ事業の登録アーティストの経験を持つ。現在は、長岡市アウトリーチ事業の伴奏アーティスト、ピアノソロ演奏の音楽活動の他、ピアノ教室主催、保育園・こども園などの音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導経験を持つ。	
授業担当者 玉橋寿子	実務経験	ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導を行っている。	
授業担当者 江口裕子	実務経験	中学校にて講師の経験を持ち、ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導に携わっている。また、高齢者施設において演奏活動も行っている。	
授業担当者 平松 咲子	実務経験	カワイ音楽教室にて3年、ピアノ教室主宰25年音楽指導を行う。また長岡療育園にて音楽療法のピアノを担当している。	
授業の回数 20回	時間数 (単位数) 40時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発声法・ピアノ奏法・コード奏法に基づく弾き歌い・表現の仕方を学び、保育の現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。 [授業全体の内容の概要] 発声の基本、歌唱表現の方法、保育現場における音楽・ピアノの役割と表現について学び、習得する。 個人レッスン内において、コード奏法に基づく童謡等のピアノ演奏と弾き歌いについて学ぶ。 歌唱教材伴奏法を基にしたグレード制に沿って、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 歌唱の為の呼吸法と発声法を理解する。 童謡の両手奏による弾き歌いができる。 ハ・ト・ヘ・ニ長調のスケールカデンツが弾ける。おじぎ奏が弾ける。 ハ・ト・ヘ・ニ長調の童謡をコード奏法で弾き歌いができる。 歌唱表現のための楽譜のよみ方を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (担当：佐々木陽子)			
コマ数	音楽基礎	スケール・カデンツ	実践
1	コード伴奏法の方法 コードづけの基本	ハ・ヘ・ト長調 ニ長調	おじぎ奏 ・春がきた ・せんせいとおともだち
2	コードづけ実践		
3			・きらきら星
4			
5			おじぎ奏小テスト
(担当：江口裕子 佐々木陽子 玉橋寿子 渡邊若菜)			
	歌唱教材伴奏法によるグレード制	実践曲	スケール・カデンツ
6	4級から順次受験し、最低到達点を就職の学生は3級、進学の学生は1級とする。	①春がきた(ハ長調)	ハ長調
7		②せんせいとおともだち	ト長調
8		③きらきら星(ニ長調)	ヘ長調
9		④かたつおり	ニ長調
10		⑤めだかのがっこう	

11		⑥こいのぼり	
12		⑦朝のうた	
13		⑧おかえりのうた	
14		⑨うみ(ト長調)	
15		⑩たなばたさま(ヘ長調)	
16			
17			
18			
19			
20	①～⑩の習得状況の確認		
※グレード・実践曲・スケールカデンツ共に習得できた段階で、担当講師よりチェックシートに合格印をもらうこと。			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] 子どものための音楽表現（萌文書林） 歌唱教材伴奏法(教育芸術社) こどものうた200(チャイルド本社)	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・グレードの取得級 ・期末考査（実技試験） ・学習（授業）態度	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の音楽表現Ⅳ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 佐々木陽子	実務経験	文化庁登録アーティスト、長岡市アウトリーチ事業の登録アーティストの経験を持つ。現在は、長岡市アウトリーチ事業の伴奏アーティスト、ピアノソロ演奏の音楽活動の他、ピアノ教室主催、保育園・こども園などの音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導経験を持つ。	
授業担当者 玉橋寿子	実務経験	ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導を行なっている。	
授業担当者 江口裕子	実務経験	中学校にて講師の経験を持ち、ヤマハ音楽教室、専門学校のピアノ講師として長年音楽指導に携わっている。また、高齢者施設において演奏活動も行っている。	
授業担当者 平松 咲子	実務経験	カワイ音楽教室にて3年、ピアノ教室主宰25年音楽指導を行う。また長岡療育園にて音楽療法のピアノを担当している。	
授業の回数 20回	時間数 (単位数) 40時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] いろいろな楽器やリズムに親しみ、合奏の楽しさを学び経験する。 保育の現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。 [授業全体の内容の概要] 様々な楽器の奏法を学び、各個人役割を分担し、それぞれのパート練習から合奏に発展させる。 個人レッスン内において、コード奏法に基づく童謡等のピアノ演奏と弾き歌いについて学ぶ。 歌唱教材伴奏法を基にしたグレード制に沿って、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ハ・ト・ヘ・ニ長調とニ短調のスケールカデンツが弾ける。 童謡の両手奏による弾き歌いができる。 合奏の発表を行う。 ハ・ト・ヘ・ニ長調とニ短調の童謡をコード奏法で弾き歌いができる。 グレードの取得。 就職の学生は1級、進学の学生は歌唱教材伴奏法を担当講師の指示の通り進める。 保育現場における音楽の役割と表現の方法を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] (担当：佐々木陽子)			
コマ数	合奏	スケールカデンツ	実践
1	・いろいろな楽器を知る。実際に演奏してみる。 ・「あわてんぼうのサンタクロース」 楽譜配布・パート決め 練習	ハ・ニ・ヘ・ト長調	・おべんとう ・やきいもグーチーパー
2			
3		ニ短調	
4			弾き歌い発表会
5	合奏発表会		
(担当：江口裕子 佐々木陽子 玉橋寿子 平松咲子)			
	歌唱教材伴奏法によるグレード制	実践曲	スケール・カデンツ
6	就職の学生は2級から受験し、1級を取得する。進学の学生は担当講師の指示通り歌唱教材伴奏法を進める。	① おべんとう(ハ長調)	ハ長調
7		②やきいもグーチーパー	ニ長調
8		③森のくまさん	ヘ長調
9		④アイアイ	ト長調

10		⑤さんぽ	二短調
11		⑥まめまき（二長調）	
12		⑦やぎさんゆうびん（へ長調）	
13		⑧おばけなんてないさ（ト長調）	
14		⑨うれしいひなまつり（二短調）	
15		⑩1年生になったら（へ長調）	
16			
17			
18			
19			
20	①～⑩の習得状況の確認		
＊グレード・実践曲・スケールカデンツ共に習得出来た段階で、担当講師よりチェックシートに合格印をもらうこと。			
[使用テキスト・参考文献]		[使用テキスト] 子どものための音楽表現（萌文書林） 歌唱教材伴奏法(教育芸術社) [参考文献] こどものうた200(チャイルド本社)	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・グレードの取得級 ・合奏の演奏 ・期末考査（実技試験） ・学習（授業）態度	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業タイトル（科目名） 保育の身体表現Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実習）	
授業担当者 平沢 康子（他1名）		実務経験	公益財団法人において、未就園児から小学生、大人までを対象とした、スポーツ教室の指導者として従事。また、行政と連携し、専門職を対象とした講演や研修、子育て支援事業に携わった。
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
〔授業の目的・ねらい〕 実際に運動遊びを体験していくなかで、多くの動作の組み合わせ方、様々な遊具の使い方、遊具やその場の意味づけ、その場の雰囲気やルールづくりを具体的な展開を通して学ぶ。また、リズムに合わせた運動あそびと身体表現を修得する。 〔授業の全体の概要〕 各種の身体表現（運動遊び、リトミック、ダンス等）を通して、子どもの生きる力を育てるための知識や技能を学ぶ。また、具体的な展開のための技術を学ぶ。 〔授業終了時の達成課題（到着目標）〕 1. 子どもを取り巻く環境を理解した上で、保育環境を充実させるための手法を理解する。 （年間計画の作成方法など） 2. コミュニケーション能力を高め、子どもの豊かな感性を育てる手法を理解する。 3. 安全管理等を含む指導上の留意点を理解する。 ＜実技＞ 4. 音やリズムにあわせた表現運動の具体的な展開のための技術を習得する。 5. 多様な動きづくりのための具体的な展開方法を習得する。 6. 遊具や用具等の特性を理解し、活用方法を習得する。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1. 子どもを取り巻く環境を考える ＜実技＞支持力を高める動きを考える 2. 基本の動きをあそびで表現する 水泳指導、水あそびの指導方法 3. 身体感覚を高める運動あそび 神経と筋協応の運動あそびの展開方法 4. 子どもの生活習慣と生活リズム バランス能力を高める動きを考える 5. 乳幼児期の心身の発育発達について 用具を活用した運動あそびを考える 6. 運動指導時のコミュニケーションスキル 手作り用具の製作とあそびの展開方法① 7. 運動指導の基本的な考え方 手作り用具でのあそびの展開方法② 8. 子どもの生きる力を育てる運動指導例 リトミックの活用方法 9. 年間計画の作成方法 音・リズムあそびの展開方法 10. 指導上の留意点 指導者の資質と技術 11. バランスのよい身体づくり ダンス振付のための基本要素 12. 安全管理について リズム体操、ダンスの展開方法 13. 実技試験（グループ発表） 実技評価 14. 筆記テスト 固定遊具等の活用方法 15. 筆記テストの見直し、理解 こどもと安全に向き合うには			
使用テキスト・参考文献] ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・出席状況、授業態度、提出物、実技試験、 筆記テスト	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育の造形表現Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 溝口 敏美	実務経験	県立高等学校および県内の専修学校にて、美術科目の講師として学生指導に従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 幼児の知的好奇心や心豊かな感性を育成できるような美的環境や玩具、遊具、絵を作成し、活用法を考える。 [授業全体の内容の概要] 幼児の発達段階に即した遊具、玩具を身近な素材を用いて、美的・創造的に制作する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 幼児をよく理解し、美的・総合的な作品作りが工夫でき、多様な遊び方を展開できるようになる。作品に対する創意工夫。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
立体表現 1～4 オリエンテーション 各素材、道具の説明、描くことの意義の説明 (面どり技法) ①色画用紙でお面を作る。(キャラクター可) ②色画用紙で頭にかぶる帽子を作る。(キャラクター可) 5～8 固まる粘土 (紙粘土)、固まらない粘土 (油粘土) を使用しての作成。 ①固まる粘土 指人形、食べもの、お弁当等 再生不可 ②固まらない粘土 動物、食べ物、○□△等 再生可能 9 石に描く 色んな形の石にあった表現で彩色する。 10～14 ドールハウスの作成 身近にある段ボールを使い、グループでお家を作成する。 15 各自の作品の鑑賞の後、試験			
[使用テキスト・参考文献]		なし	
[単位認定の方法及び基準]		教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の項目に配点を設けて総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 作品評価、授業態度、授業内容の把握、作成意欲	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習Ⅰ（保育所）		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習 ）	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導を行っている。	
授業の回数	時間数（単位数） 80時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] ・実習を通して子どもの生活を理解する。 ・実習を通して子どもを取り巻く環境を理解する。 ・実習を通して保育士の役割を理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 ・乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 ・保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。			
[実習方法] 保育所での生活に参加することにより、保育の一日の流れを全体的に理解し、乳幼児の生活や遊びの観察、保育士の保育業務の観察を通して保育所保育の在り方を学ぶ。 [実習段階の具体的な内容] ①見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにともなう保育士の対応を把握する。 ②参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。 ③責任実習（部分実習） 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。 [実習の課題] ・3歳未満児と幼児の生活のそれぞれを理解する。 ・日課に沿って保育士の活動（環境・子どもへの対応など）を多面的に理解する。 ・自ら準備した課題を保育の場で実践する。 ・保育士を志すものとして自覚を高める。			

[使用テキスト・参考文献] ・ mew 教本 ・ 保育実習の手引き	[単位認定の方法及び基準] 実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等を総合的に評価する。
---	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習Ⅰ（施設）		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習 ）	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導を行っている。	
授業の回数	時間数（単位数） 80時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深める。 ・施設の意義と今日的役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・実習を通して利用者の生活を理解する。 ・実習を通して福祉施設の内容や機能を理解する。 ・実習を通して保育士・施設職員の役割と連携を理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。			
[実習方法] 施設での生活に参加することにより、一日の流れを全体的に理解し、利用者の生活の観察、職員の業務の観察を通して支援の在り方を学ぶ。 [実習段階の具体的な内容] ①見学・観察実習 施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにともなう職員の対応を把握する。 ②参加実習 担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育（養護）の援助を学ぶ。 ③責任実習（部分実習） 施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。 [実習の課題] ・利用者の生活を理解する。 ・日課に沿って保育士・施設職員の活動を多面的に理解する。 ・自ら準備した課題を保育の場で実践する。 ・保育士を志すものとして自覚を高める。			

[使用テキスト・参考文献] ・ m e w 教本 ・ 保育実習の手引き	[単位認定の方法及び基準] 実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等を総合的に評価する。
---	---

授 業 概 要

(こども保育科)

授業科目名 保育実習Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習)	
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。	
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。	
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。	
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導を行っている。	
授業の回数	時間数(単位数) 80時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] ・実習を通して個々の子どもの実態を把握し、乳幼児集団について理解する。 ・実習を通して保育士の援助の方法を習得する。 ・実習を通して保育計画を理解し指導計画の立案の実際について学び実践する。 ・実習を通して保育士集団の役割を理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 ・乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 ・保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。			
[実習方法] 保育所での生活に参加し指導案計画の具体的立案の方法を保育の実践に即して理解する。 [実習段階の具体的な内容] ①見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにともなう保育士の対応を把握する。 ②参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。 ③責任実習(部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。 ④責任実習(全日実習) 実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。 [実習の課題] ・保育実習Ⅰの経験を踏まえ、指導案に基づいた責任実習を行う。 ・保育所保育士としての意識を高め。全般的な技術を習得する。 ・よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。			

[使用テキスト・参考文献] ・ mew 教本 ・ 保育実習の手引き	[単位認定の方法及び基準] 実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等を総合的に評価する。
---	---

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業科目名 保育実習Ⅲ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実技 ・ 実習 ）		
授業担当者 嘉代 由美子	実務経験	私立幼稚園において3～5歳児、認定こども園において0～2歳児、また小規模保育園の保育に従事し、担任業務、実習生指導を行った。		
授業担当者 佐藤 恵美子	実務経験	私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。		
授業担当者 三上 真里子	実務経験	私立保育園において26年間勤務をし、0～5歳児のクラス担任、実習指導など多岐にわたる保育業務に従事した。		
授業担当者 星名 陽太	実務経験	首都圏、新潟県内で保育教諭として勤務。0～5歳児の担任、副担任に携わる。また、専門学校の教員として保育士養成に係る科目の講義、実技、実習指導を行っている。		
授業の回数	時間数（単位数） 80時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] ・施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深め、施設の意義と今日的役割を理解する。				
[授業全体の内容の概要] ・実習を通して個々の利用者の実態を把握し、集団の生活について理解する。 ・実習を通して好ましい援助の方法を具体的に体得する。 ・実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。				
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ・施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。				

[実習方法]

施設での生活に参加し、生活・学習・余暇活動等、援助について体験的に理解する。

[実習段階の具体的な内容]

①見学・観察実習

施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにともなう職員の対応を把握する。

②参加実習

担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育（養護）の援助を学ぶ。

③責任実習（部分実習）

施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。

④責任実習（全日実習）

実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。

[実習の課題]

- ・ 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、支援案に基づいた責任実習を行う。
- ・ 実習施設の内容や機能、保育士の役割と求められる専門性、対象児・対象者とそのニーズについての理解を深める。
- ・ よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。

[使用テキスト・参考文献]

無し

[単位認定の方法及び基準]

実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等を総合的に評価する。